

駿河台大学資格課程年報

*Surugadai University qualification
course annual report*

司 書 課 程
学 芸 員 課 程

No.21
(2020)

ごあいさつ

駿河台大学資格課程 主任 寺嶋 秀美

『駿河台大学資格課程年報』第21号をお届けいたします。

1994年3月に駿河台大学文化情報学部が創設され、1995年4月に、文化情報学部資格課程（司書課程・学芸員課程）が設置されました。開設7年目の2001年に『駿河台大学資格課程年報』創刊号を刊行しました。そして、その後も継続して年報を刊行し、今年度も無事に第21号を刊行することとなりました。

司書課程においては、資料情報の組織化及び検索・提供を行う司書の育成を行っています。文字情報だけでなく、映像や音響も含めた多様な情報に対する理解や対処ができる、まさに情報の専門家の役割を果たす人材の育成をめざしています。

学芸員課程においては、博物館資料の展示・教育活動等の情報社会における意義・役割を重視したカリキュラムを設置し、資料情報のデータベース化やインターネット上での公開などの情報処理技術を身につけた新しい学芸員の育成をめざしています。

2009年度には『メディア情報学部』が誕生し、駿河台大学資格課程は同学部に設置されています。資格課程は、メディア情報学部のほか、法学部・経済経営学部・現代文化学部・スポーツ科学部・心理学部の学生も学ぶことができるようにされています。

2013年度からは、図書館法および博物館法の改正に伴い、それに沿った新しいカリキュラムが開始されています。

今年度は新型コロナ禍により、ほとんどの授業がオンラインで実施され、教員および学生の双方が慣れない環境となりましたが、1年間を終えることができました。ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。

また本学では、学外実習が始まった当初から教員がそれぞれの実習館を訪問し、実習生を受け入れてくださっている博物館とのコミュニケーションを図ってまいりました。これまでご理解・ご協力いただいた館園には、厚く御礼申し上げます。この年報を通して本学の資格課程カリキュラムの内容をご確認いただけましたら幸いです。

= 目 次 =

ごあいさつ	寺嶋 秀美
I. 司書課程	
駿河台大学 司書課程について	石川 賀一 ・ ・ ・ ・ 5
II. 学芸員課程	
駿河台大学 学芸員課程について	野村 正弘 ・ ・ ・ ・ 9
実習館訪問記：(「進化生物学研究所」訪問報告)	川邊 讓 ・ ・ ・ ・ 13
《博物館実習 体験記録》	
博物館実習を終わって・レポートから	博物館実習生 ・ ・ ・ 15
資 料	
博物館実習協力館一覧 (過去 3 年分) 2018 年度、2019 年度、2020 年度	
2020 年度資格課程 (司書課程・学芸員課程) 修了者	
司書課程科目担当教員一覧	
学芸員課程科目担当教員一覧	

I . 司書課程

駿河台大学 司書課程について

メディア情報学部 講師 石川 賀一

司書課程の特色

駿河台大学では1994年文化情報学部創設の翌年に資格課程として司書課程と学芸員課程を設置し、これまで1,200名以上の資格取得者を輩出している。2001年度より資格課程は全学に開かれ、他学部の学生も履修できるようになった。

2009年に文化情報学部はメディア情報学部に変更された。メディア情報学部は、3分野・7つのモジュールで構成されており、様々なメディアの本質を理解し、各種メディアに精通し、多元的メディア社会に即戦力となる人材の育成を目標としている。

司書が専門的な業務を遂行する職員としてたずさわる図書館には、公共図書館・学校図書館・大学図書館に加えて、企業等に設置されている専門図書館・情報センターがあり、それぞれの利用者のニーズに応じて様々な情報サービスを提供している。駿河台大学の司書課程ではメディアと情報資源に関する全般的な知識や技術を学んだ上で、司書資格を取得することにより、今後のマルチメディア時代に公共図書館だけでなく、大学・専門・学校図書館などでも役に立つ図書館・情報専門職の教育を行っていることが特色である。

司書課程4年間の流れ

司書資格のための科目は1年次から開講されている。4年次までに資格に必要な科目を計画的に修得し単位をそろえる。2017年度以降の入学生を例に、4年間の履修の流れを紹介する。(司書課程科目一覧を参照)

1年次： 入学してすぐに資格課程登録ガイダンスを受け、『資格課程受講登録』を行う。授業に出席し単位を修得する。1年次から開講される必修科目は「図書館情報学」「図書館サービス概論」「図書館情報資源概論」の3科目である。

2年次： 授業に出席し単位を修得する。2年次から開講される必修科目は「生涯学習論」「図書館情報技術論」「情報サービス論」「情報資源組織論」「児童サービス論」の5科目である。選択科目も適宜修得する。

3・4年次： 授業に出席し単位を修得する。3年次から開講される必修科目は5科目（講義科目1科目、演習科目4科目）で、必ず修得し、また選択科目を適宜修得する。そして司書資格に必要な単位(30単位)をそろえる。

司書課程科目一覧（2017年度以降入学生適用）

区分	図書館法施行規則によって定められている科目	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数	
必修科目	甲群	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	13科目 26単位 必修
		図書館概論	2	図書館情報学	2	1	
		図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	3・4	
		図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
		図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	1	
		情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
		情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ（基礎）	2	3・4	
				情報サービス演習Ⅱ（発展）	2	3・4	
		図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	1	
		情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
		情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	2	3・4	
				情報資源組織演習Ⅱ	2	3・4	
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2			
選択科目	乙群	図書館情報資源特論	1	歴史資料論	2	3・4	2科目 4単位 以上
			1	デジタル・アーカイブス論	2	3・4	
		図書館サービス特論	1	コミュニケーション論	2	2・3	
		図書館基礎特論	1	情報処理概論	2	1	
図書館総合演習	1	図書館総合演習	2	3・4			

II. 学芸員課程

駿河台大学 学芸員課程について

メディア情報学部 教授 野村 正弘

学芸員課程の目標と経過

駿河台大学の学芸員課程は、メディア情報学部設置されている。メディア情報学部の教育目標の一つは、「情報メディアエーター」の養成である。この「情報メディアエーター」とは、人間の文化的営みに関する諸々の資料などに関する専門的知識を持つとともに、これらの資料情報をシステム化し、データベース化するための情報処理技術を身につけ、これらの資料に関する要求に対して適切な情報提供の仲介を行う専門家のことである。文化資料の宝庫とも言える博物館の「情報メディアエーター」とは、その能力をもつ博物館学芸員を意味する。

この目標を達成するため、メディア情報学部の前進である文化情報学部のカリキュラムには、学部設置当初から博物館関係の科目が設けられた。1995年、博物館法施行規則にもとづく学芸員資格取得のための必要科目も開設された。また同年、学芸員課程と司書課程を合わせた「文化情報学部資格課程」が設置され、専門的知識と情報処理技術を身に付けた学芸員の養成が本格的に開始された。

その後、1996年の博物館施行規則改正に伴い、1997年度から必修科目が開講されている。2001年度には、他学部の学生や学外の科目等履修生も学芸員の資格取得を目指せるように、学則および科目の一部を改正した。資格課程も学部規模から大学規模に拡大され、現在は全学部からの委員で構成される「資格課程委員会」がその運営に当たっている。

学芸員課程の履修科目

1995年の開講時には、必修科目として6科目14単位、選択科目では12科目の中から4科目8単位以上、人文・自然科学系科目として10科目の中から3科目6単位以上の履修が資格取得に必要なように設定された。1996年度の博物館法施行規則の改正にもなっており、必修科目に「生涯学習概論」、「博物館概論」を追加し、必要単位数を8科目18単位とした。さらに、2001年度から、文化情報学部のカリキュラムの一部改正、ならびに資格課程を本学の他学部、科目等履修生に開講したことにもともない、一部科目の新設ならびに入れ替えを行って、学芸員資格取得に必要な科目を加え改正した。

主な変更点は、次の通りである。必修科目では「博物館資料論」を設け、選択科目では科目を一部入れ替えるとともに、人文・自然科学系科目を二つに分け、それぞれⅡ群、Ⅲ群とした。履修方法は、Ⅰ群は、受講者全員が履修することとし、Ⅱ群、Ⅲ群の科目からは2科目4単位以上を自由選択により修得しなければならないことにした。また、「博物館実習」は、年間を通して大学で行う学内実習と博物館などの現場施設で行う学外実習を合せて実施している。

2013年度からは博物館施行規則改正に伴う新科目の開設を行い、2017年度からは、配当年次、選択科目の見直し、人文・自然科学系科目の群分け廃止等を行い、別表1のカリキュラムでの学芸員養成を開始している。

履修登録および博物館実習への対応

学芸員課程の履修については、毎年、「資格課程履修ガイド」を発行し、学生に配布して周知を図っている。これに基づく年間スケジュールでは、まず、毎年4月、1年次生および3年次編入生を迎えた段階で、司書課程と合同で「資格課程登録ガイダンス」を行い、その後、学芸員課程の履修を希望する学生は、登録期間内に本学の所定の方法にしたがって教務課窓口で登録することになっている。

博物館実習については、3年次生を対象に、毎年11月中旬に第1回のガイダンスを行い、博物館実習の実施内容や実施上の注意事項を改めて説明している。そのとき、実習館園に関するアンケート調査を行い、その後のガイダンスで担当教員と学生が相談しつつ実習希望館園を絞り、適時学生白身に申し込みをさせている。その後も、申し込みの状況や途中経過などを確認し、およそ3月～4月末までに学生各自が実習館の内諾をいただけるようにしている。これを受け、内諾をいただいた実習予定館園に対し正式に学長名文書で依頼を行っている。

実習直前には、実習予定学生に対して「実習直前ガイダンス」を行っている。ここでは、博物館実習は、実習実施に当たっての諸注意や期間中の連絡体制等を説明し、実習日誌などを配布して、実習の心構えと準備を整えさせている。博物館実習の授業内では、実習に対する心構え、事前準備などの事前指導を行っている。実習が始まると、担当教員ができるだけ実習期間中に各実習館園に挨拶に伺って、実習状況の確認と実習学生の激励を行い、以後の学生受入についてお願いしている。また、実習終了後には事後指導を行い、学芸員の職務を再確認させ、学芸員になるための一層の努力を促している。なお、資格課程に関わる一連の事務は、メディア情報学部担当の教務課職員がその処理に当たっている。

学芸員資格課程の今後

1997年度に初めて、本学の学芸員資格課程で86名が学芸員の資格を取得したが、2013年度の法改正後は5～6名の学生が資格を取得している。ここ数年は10名程度と微増傾向にあるが、これまで博物館に就職した者は非正規職を含め数名にすぎない。学芸員募集には、募集分野の細分化や高学歴化の傾向、施設運営の指定管理者制度導入の影響が見られ、資格を持ちながらそれを活かす職に就けない状況が続いている。これは本学資格課程だけの問題ではなく、学芸員課程を開設している日本全国の大学に共通な問題である。

一方、学芸員資格は国家資格であるため、これを取得したことを重視して採用を行ってくれる企業も、多くはないものの存在する。そこで本学では、博物館実習を一種のインターンシップの場としても捉えている。幸い、実習博物館でも、実習学生の受け入れを社会教育施設の業務の一つであると解して協力してくれるところもあり、今後大学と博物館とのさらなる連携を推進して行く必要がある。

別表1 学芸員課程科目一覧（2017年度以降入学生適用）

区分	博物館法施行規則によって定められている科目等	単位	本学における科目	単位	配当年次	必要単位数
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習論	2	2	10 科目 20 単位 必修
	博物館概論	2	博物館概論	2	1	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3 4	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3 4	
	博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	4	
博物館実習Ⅱ			2	4		
選択科目	資料・情報管理系科目	マルチメディア論	2	2	8 単位 以上 選択	
		アーカイブズ学		3 4		
		映像メディア論	2	3 4		
		音響メディア論	2	2		
		データベース設計論	2	3 4		
		ネットワーク構築論	2	3 4		
		デジタル・アーカイブズ論	2	3 4		
	人文・自然科学系科目	歴史資料論	2	3 4		
		都市と文化施設	2	2		
		文化人類学Ⅰ	2	1 2		
		文化人類学Ⅱ	2	1 2		
		歴史学Ⅰ	2	1 2		
		歴史学Ⅱ	2	1 2		
		環境生物学Ⅰ	2	1 2		
		環境生物学Ⅱ	2	1 2		
		生命の科学Ⅰ	2	1 2		
		生命の科学Ⅱ	2	1 2		
		現代自然科学Ⅰ	2	1 2		
		現代自然科学Ⅱ	2	1 2		
		地球科学	2	1 2		
		法史学	2	2 3		
		経済史Ⅰ	2	1		
		経済史Ⅱ	2	1		
		日本文化論Ⅰ	2	2		
		日本文化論Ⅱ	2	2		
		西洋文化史	2	2 3		

《実習館訪問記》

進化生物研究所を訪問して

心理学部 教授 川邊讓

資格課程に登録し、学芸員資格取得を目指している私のゼミの玉置朱雀さんが実習先である一般財団法人進化生物研究所を訪問させていただきました。

同研究所は、東京農業大学と道を挟んで建っている東京農業大学「『食と農』の博物館」の3階・4階部分にあります。訪問したのは10月19日で、ちょうど同大学出身の正代関が大相撲9月場所で初優勝し、大関に昇進した直後であったため、いたるところにお祝いの横断幕があり、周囲の雰囲気は晴れやかなものとしていました。また、「食と農」の博物館前では、タイの闘鶏であるナレースワン大王鶏の巨大な像(写真1)が異彩を放っており、これもまた周囲を元気づけているかのようでした。

本実習は、研究所周辺の雰囲気とは裏腹に、新型コロナウイルス感染症が終息の兆しを全く見せない中、実習を受け入れていただけるものかと心配する中で行われたものでした。新型コロナの影響は、同研究所に行き着くところで現実のものとなってしまいました。同研究所には普段は、「食と農」の博物館から入れるようでしたが、同博物館は入館者を事前予約者に限定する措置をとっていました。そのため、入り口を探すのに相当苦勞して、結局博物館の警備の方に「駐車場の脇の道を抜けて…」と教えていただき、看板も表札もない文字どおりの裏口から訪問することとなりました。

この「裏口入館」により、博物館は、綺麗に整えられた展示室それを支えるために日々こつこつと地道な作業を続けるバックヤードから成るということを体感することができました。ゴム長靴を履いて、畑で作業をする方、ごみを集めている方たちの姿は、普段博物館を訪問する際にはあまり明確には意識できていないものでした。学芸員実習では、博物館で来訪者に対してどのように正確な知識を分かりやすく説明するかなどを学ぶことよりも、バックヤードの実情を学ぶことの方が大事なのだらうと実感できました。

訪問した10月19日は、1週間の実習の初日で、訪問した時間帯はちょうど実習担当の橋詰二三夫先生によるオリエンテーションと施設案内の最中のようなものでした。そこで、事務局長の今木明先生にご挨拶をし、施設や実習の概要等を伺ったのですが、今木先生もバックヤードの充実の必要性を強調しておられました。スミソニアン博物館や大英博物館のバックヤードの巨大さ、人員配置と比べると日本の博物館はどこも非常に見劣りするのだそうです。何か日本社会全体に共通する余裕のない合理性や効率性を感じました。新型コロナウイルス感染症防止の観点から実習受け入れを断念する施設もある中、同研究所が実習を受け入れた背景には、せつかく学芸員資格を取るのだから学芸員の仕事の実際をしっかり理解してほしいという思い、そして、学芸員の仕事の重要性をもっと社会に知らしめてほしいという思いがあることが良く理解できました。同研究所では、実習受け入れに当たり、3密回避のため1回あたりの受け入れ人数を10名に制限し、その代わりに、従来12月末までであった受け入れ期間を3月末までに延長して対応いただいているとのことでした。実習受け入れに伴う負担が増大することを厭わずに、できるだけ多くの学生に実習機会を提供してくださろうという同研究所の姿勢には感謝しかありません。

そうした同研究所の姿勢を反映してか、実習はまずは併設の展示温室「バイオリウム」でのマダガス

カルの原猿類レムールのケージの掃除でした。玉置さんも他の実習生と同じように、ひとつのケージを任されてデッキブラシで床を掃除していました。ちょっとおっかなびつくりの感じもありましたが、今木先生によるとじきに実習生もレムールも慣れるのだそうです。バイオリウムでは、マダガスカルやアフリカの熱帯地方の植物が育てられ、また、陸ガメが放し飼いになっていました。バックヤードの重要性をしっかりと認識できる良い実習になるという確信が持てました。同研究所のスタッフの皆さん、本当にありがとうございます。

玉置さんにはこの実習の経験を今後の仕事に活かしてほしいと思います。

最後に、本実習に当たり、種々のご調整、ご指導をいただきました寺嶋資格課程主任をはじめとする資格課程ご担当の諸先生方、事務担当の平澤さんには深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



写真1 「食と農」の博物館前のナレースワン
大王鶏の像



写真2 「食と農」の博物館内のトリケラトプスの
標本（レプリカ）

《総合博物館での実習》

埼玉県立川の博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 田中慶吾

私は8月1日から9日まで月曜日と金曜日を除く7日間、埼玉県立川の博物館にて実習をさせていただきました。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐということから、例年とは異なり実習内容や実習日数の削減、来館されたお客様との交流企画が一部省略されての実習となりました。実習指導を担当していただく羽田先生の臨機応変な対応による少人数の受け入れ、平山館長や博物館の皆様の全面的な協力で実習をしていただけました。コロナ禍における新たな対応スタイルというものを現場でいち早く学ばせていただき、大変有意義な実習であったと強く思いました。感謝いたします。

この博物館は名前の通り、川の形態や生態について学ぶことのできる博物館です。遊びや暮らしの中の何気ない一コマという経験や体験と通じて、自分自身の視野を広げてもらうといった学びを提供しています。また、この博物館の前を流れる荒川の生物やその関連資料などを展示しています。

私は今回、川の博物館で実習を行い初日は基礎的な知識を学び、教育普及事業については川の近くという利点を最大限に活かした展示を見学することで多くを学ばせていただきました。また、初日は夏休みで休日ということもあって多くの方が来館されていました。今年度は密集、密閉、密接を防ぐ観点から、入館制限を掛けるようになっていました。お客様を炎天下に晒さぬよう、日陰で待っていただくなど徹底した対応が現場ではなされていました。また、昨年起こった台風の被害についても映像や画像を通じて教えていただき、お客様に真実を伝えるためには時に厳しい現実を学ばなければいけないのだとわかりました。

2日目は館へ寄贈いただいた資料を修繕する作業や、収蔵庫内を見学させていただきました。見学の際は前室や庫内の徹底した保存環境に対する取り組みや、川の近くであることや自然豊かな環境に立地ことならではの悩みなども聞かせていただきました。やはり、日頃の小さな作業の積み重ねやちょっとした変化に対する気づきなどが資料を保存するのに大切なのだと改めて実感しました。また、同じ日の修繕作業でも心配りや取り組む姿勢が大事だと学びました。修繕するための原因究明や調査などを現場で行い、この日初めてチームで一つのものを作り上げるということをしました。違う大学の方とほぼ初対面で、チームプレイというのは慣れない経験でありましたが、無事に作り上げることができ、また一つ成長につながったと自分自身感じています。

3日目は収蔵品を管理するための清掃作業やバグトラップ設置、荷札をつけ博物館資料を管理するという作業をさせていただきました。入口付近にあるバグトラップ設置には特に注意をし、周囲を隅々まで入念に清掃することに心がけました。また、資料管理に関しては今後も残していく情報であるため責任も感じました。また、取り扱った資料がはく製であり、日常生活ではあまり触れないためとても参考になりました。

4日目は、実際の資料の検査・梱包という、前日までに比べさらに責任のある仕事を体験させていただきました。まずは、実習生が各自で持ち寄った器などを使って練習し、次に本物をらせていただくという流れでした。まずは検査という作業から始め、資料の特性を検査する作業を行いました。欠けている資料や一部が不足している資料まで、事細かに書き写すという観察能力を最大限に使う作業でした。午後には、実際に資料を梱包する作業を行い、個人で行う場合と複数人で行う場合の数種類のパターンを体験しました。複数人で行う場合は連携プレイとなるので、苦労いたしました(写真4)。

5日目は、子供たち向けの体験学習企画する作業を通じて、教育事業を学ばせていただきました。実際に荒川に入つての水質調査・生き物の調査など、遊びの中に学びと入れるという事業構成を最大限学ぶことができました(写真5)。

6日目、7日目は終盤に差し掛かり、まとめの作業として、博物館内にある大模型の解説をチームで行いました。実際に行われている事業で、「ガリバーウォーク」と称し人気企画です。解説のターゲットの想定から考え、限られた時間の中でいかにして、来館されたお客様に説明することが出来るのかというのを考えることに大変苦労しました。当日の天候や、参加者の構成も考えたうえで、その場その場で柔軟な対応が迫られるため、予測して挑むことにも力を注ぎました。

実習全体を振り返ると、自分自身の気づきというものが大変多い実習であったと思います。仲間と連携しての事業やそれらをこなすための小さな積み重ねなど、今後の日常生活においても大いに役立てられることばかりでした。是非とも活かしていきたいと思えます。

最後になりますが、このようなコロナ禍の中快く我々実習生を迎え入れてくださった川の博物館の方々に、改めて感謝を申し上げます。



写真3 グループでの梱包作業



写真4 荒川の生き物

《歴史博物館での実習》

長野県立歴史館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 塚田日奈子

私は2020年8月20日から25日までの5日間、長野県立歴史館にて実習をさせていただきました。長野県立歴史館は、「原始」から始まり「古代」「中世」「近世」「近現代」のわかれ、長野県の生活の歴史を時代ごとに学べる常設展示を持つ博物館としての機能のほかに、公文書の収集・管理・閲覧提供といった公文書館としての機能も備えています。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて実習期間が半分になってしまいましたが、実践的なものが多く充実した内容でした。

今回の実習では博物館の多岐にわたる業務を経験させていただきました。最初は考古資料のデータベースの閲覧対応といって、報告書に記載されている資料を実際に収蔵庫まで探しに行く業務を体験しました。図版番号からデータベースにアクセスし、棚番号を請求。遺物持出位置添付票を記入し収蔵庫へ移動。棚番号通りに資料を発見しました。

考古資料の保存処理では、金属器の保存前処理として、細かい粉末状のアルミナをエアブラシで吹き付けて、錆や汚れを落とす作業を体験させていただきました。木器の保存では、流水と筆で汚れを落とす実習で、筆は資料に対して垂直に当て細かく動かすことが大事なのだと言われました。

文献史料の整理実習では、史料のナンバリングと古文書書庫の見学を行いました。古文書書庫には前室が設けられており、前室の扉を開けると床のフラップが下がり、閉めるとフラップが上がるようになっていました。虫が侵入しないようにしっかり対応がとられていると実感しました。資料番号は「△-○-1」と割り振られます。△は郡、○は受け入れ順で1は通し番号になります。実習では古新聞のナンバリングを行いました。番号の書かれた紙に筆で糊を付けて史料に貼っていく作業で、現秩序に注意しながらの作業でした。そのあとは目録の制作でExcelのシートに資料番号とリンクするように項目ごとに打ち込みました。項目は和暦の年月日と西暦の年、史料名、史料形態、数量、単位でした。

デジタルコンテンツの活用ではHPのデジタル歴史館やビーコン、QRコードの音声解説の良い点や改善点を、展示を実際に見ながら考え共有しました。HPからデジタル歴史館を見つけるのに少し戸惑ってしまい、スクロールしていけば見つかるが、メニューにはないのですぐに飛べると見やすいなどの意見が出ました。資料の調査研究と展示と保管では、資料を借りに行く際に記入する資料調書を実際に土器を使って記入しました。寸法を測り破損箇所や補修箇所など細かく記入していききました(写真6)。

綿布団の製作と梱包では、綿布団を作るのは2度目でしたが、以前作った時よりも綿が小さく、薄葉紙の中心ではなく、紙の重なりが綿の中心に来るように少し下に綿を配置するなど工夫が必要でした(写真7)。梱包は土器のレプリカを使って行いました。接地面が狭く、胴もくびれておりそれぞれ紙を当てて太さを均一にし、口には4つの飾りがついており、それも薄葉紙で包み、ひもで縛りました。綿布団で包むと正方形に近い形になり、段ボールに入れるとぴったりおさまりました。梱包は資料ごとに異なり、ケースバイケースなので経験が大事だと実感しました。

展示の実務では、バックヤードで調湿材や照明器具について解説を聞きました。照明機材は種類が多く、資料や配置など考慮して選択しなければならないと実感しました。収蔵庫内の掃除では、「掃除は上から下へほこりを払ってから、床を掃除する。隅に埃がたまと虫が出やすくなるので注意して掃除する。」と説明を受けて実際に掃除を行いました。

文化財の取り扱い方法として掛け軸や折り本、浮世絵、刀剣など解説していただきました。刀剣は手入れを見学しました。また掛け軸、折り本、巻物の扱い方を実習させていただきました。巻物は巻がずれないように少しずつ巻いていき、

ずれてしまったときは細かく修正して整えながら巻いていくと解説を聞いて、開き方や仕舞い方を練習用の巻物を使い実際にやりました。

実習期間中に展示されていた企画展の構想や展示趣旨の資料もいただき、解説をしていただきました。実際に企画展を見学し、パネルや資料についての解説もしていただきました。テーマが信州のお酒だったので、サインや大きなパネルは縦書きになっており、それに合わせて展示室が反時計回りになるように設計されていました。また、壁面のガラスケース内のパネルは文字を大きくし、読みやすさに配慮した設計となっており、見る人を意識して作る大切さを実感しました。

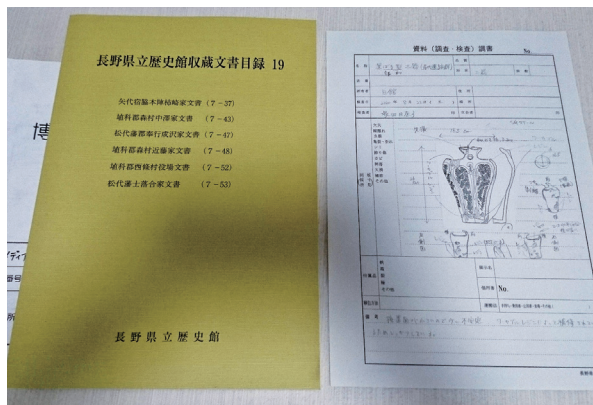


写真5 資料調書の記入



写真6 綿布団の製作

コロナ禍の中で今までのような体験学習ができず、新たな企画のクイズラリーというイベントに変更し、できるだけ接触や密を避けた柔軟な対応をとっており感心しました。広報ポスター作りではポスターに必要な項目を入れつつ、ターゲットを意識したデザインにすることでより効果的なポスターになると勉強になりました。

考古資料課の業務では「考古は古代～現代まで扱う。文字の書かれたものは文献。文字のないものは考古が扱う。文字がないから想像で多くを補う。だからこそ根拠や資料の信ぴょう性が大事になってくる。」と解説していただきました。きちんと資料批判を行うことが重要なのだと勉強になりました。

小学生を対象とした展示解説の見学をしました。小学生に分かるように難しい言葉を使わず、限られた時間内におさまる解説が必要なのだと実感しました。また、県内の様々な小学校からきている小学生に、その地域と関係のある物をピックアップして解説することで興味を引くことができ、解説を変えることで柔軟に対応していて驚きました。

最終日の館長講話では世界中、日本中の博物館を写真を用いて紹介していただきました。あれだけ多くの博物館があって、多くの文化や歴史、民俗が継承されてきたのは先人たちの努力であり、後世に残せるかは、私たちの努力次第なのだと痛感しました。

古代オリエント博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 栗林由依

私は12月17日から23日の期間で、実習休日の2日間を除いた5日間、東京都豊島区のサンシャインシティ文化会館7階にある古代オリエント博物館にて実習をさせていただいた。古代オリエント博物館は、国内で最初の古代オリエントをテーマとした博物館で、古代オリエントに関する海外調査研究をしている。常設展示をコレクション展と呼んでおり、古代オリエントや古代エジプト、メソポタミアなどの出土品、工芸品などの展示を行なっている。

実習させていただいた5日間では、図書整理や教育普及活動の体験、除菌作業、縮図計算、体験講座で使用する物の製作、講座の受付対応、写真スライドの整理、スキャン・ファイル名の打ち込み作業、チラシの配送作業等、様々なことをさせていただいた。

実習初日は、実習生3人で博物館で行われている教育普及活動を体験し、改善点の検討や寄贈され、すでに博物館側で所持していた図書に、手紙や名前などの個人情報に記載されていないか確認し整理する作業、除菌作業を行った。今回体験した教育普及活動は全年齢を対象とした“ラッキーオリエントアイテムを探せ！”である。ワークシートを使用し、“かたち・用途・印象”の3つのおみくじを引き、出た番号と同じ番号が振られている引き出しに入っているキーワードに沿った展示品を各自で考え、見つけた展示物のスケッチを行うものだった。このワークシートは、工夫をすることで



写真7 古代オリエント博物館自由学校会場前



写真8 写真スライドの整理作業

飽きさせないようにしており、その内のひとつとして、要素が複数あるテーマを毎回出る番号が分からないくじ引きで決めるという工夫をしていた。これを知って、博物館運営で欠かせない教育普及活動について考える際には、ただ行うだけでなく、様々な要素を組み合わせるアイデアを考えることは、学芸員にとって大事なことのひとつであると感じた。

除菌作業は職員の方と実習生 3 人で手分けして行った。本来の業務と感染症への対応をしているため、一緒に作業をさせていただいた職員さんの行動は無駄がないと感じた。

2 日目は模型作りに必要な縮図の計算と 2021 年 1 月に行われる小・中学生を対象にした体験講座で使用する資料を作製した。古代オリエント博物館では常設のコレクション展の他にも、クローズアップ展という企画展も行っている。このクローズアップ展で展示する神殿の模型を作成するために 1/150 スケールにするために神殿の高さや柱の幅などを計算するという体験講座で、ヒッポス遺跡の外壁について指導をくださった職員さんが決めた高さ、サイズなどを元に作業をした。体験講座では安全面から材料から外壁を作る作業は事前に館側で行い、その後の作業(色ぬりなど)を子どもたちが体験すると教えていただいた。古代オリエント博物館では、手を動かして学べるハンズオン展示が多くあったので、体験講座の話聞いた際に、「手を動かして体験することに力をいれている博物館」であると感心した。

3 日目は職員の方と一緒に博物館で行われる講座の受付をし、デジタルアーカイブに使用する写真スライドの整理を行った。講座の受付対応では、感染症の影響で消毒と検温対応が欠かせない。私がさせていただいたのはこの消毒と検温作業、講座が始まる前のセッティングだ。次に整理作業をさせていただいた写真スライドは、1980 年代に撮影されたシリアにあるパルミラ遺跡やその近辺を撮影した資料である。シリア内戦によって破壊されてしまった建物も多くあるため、今回作業させていただいた写真スライドは当時の様子を伝える資料として貴重なものとお聞きした。スライド整理ではエアブローアを使用し、付着しているゴミを取り除き、横向きで入れていたのを縦向きに入れ替える作業を行った。誤って写真に指が触れないように気を引き締めて作業を行った(写真 8)。

4 日目は実習生 2 名で、最初に来年の干支に関する展示物が常設にいくつ展示されているかの確認作業とデジタルアーカイブ化する写真スライドのスキャンとファイル名の打ち込み作業を行った。古代オリエント博物館では、毎年干支にちなんだコーナー展示が行われており、2021 年の干支が牛ということで、資料を基に事前に牛に関係する展示物をピックアップし、これを参考に現在何点が常設されているかの確認作業を行った。写真スライドのスキャンとファイル名の打ち込み作業では、前日に作業させていただいた写真スライドと同じように、貴重な資料のひとつを作業させていただいた。同じ実習生の方と、スキャン時に不備がないか(縦横比がおかしくなっていないか等)を声を掛け合って協力し合い作業進めたことで、機材トラブルに気づき対処することができた。また大学講義の中で学んだことが役立ち、元の資料とデジタル化した時のデータが違うこと(機材トラブルでスキャン時に虹色の縦線が入る)に気づけ、しっかりと相談に移すことができたことは、本当に良かった。反面、相談にいくまでに時間がかかってしまったのが課題になってしまった。正確に作業を行うためには協力し、双方で確認することの大切さを学び、臨機応変に動けるように心がけたいと思った。

5 日目はチラシの配送作業と 4 日目と同様に写真スライドのスキャンとファイル名の打ち込み作業を行った。チラシの配送作業では多くの方にお送りしていることがわかり、博物館運営は人とのつながりの積み重ねを大切にしているのだとわかった。

私はこの 5 日間の実習期間で、重複した図書の整理や模型を作るための縮図の計算から行事受付、教育活動の準備、スキャン作業など様々なことを行わせていただいた。この経験から、学芸員の業務はひとりだけでなく、複数人の動きがあり、時には協力しあって行う作業が多いと知ることができた。博物館の教育普及活動や業務の一部を体験させていただき、とても感謝している。この実習を通して学び、考えたことを学芸員の学習に活かしていきたいと思う。

最後に通常の業務に加え、感染症の対応で多忙の中、実習を受け入れてくださった古代オリエント博物館の方々に改めて感謝したい。

〈郷土博物館での実習〉

飯能市立博物館

メディア情報学部メディア情報学科 4年 齋藤亮太

私は、7月31日から8月7日で8月3日を除く計7日間、飯能市立博物館で博物館実習をさせていただきました。飯能市立博物館は、博物館法に基づいた登録博物館であり、2018年には、飯能河原、天覧山周辺のビジターセンター的機能を追加しリニューアルオープンを果たしました。町・里・山・飯能今昔といった歴史展示室や、飯能河原、天覧山周辺の自然のビジターセンター的な役割を持つ身近な自然コーナーなどがあります。歴史展示室の壁は、里が赤色、町が青色、山が緑色と色付けされており、それによりブース分けがされています。身近な自然コーナーではコーナー正面に天覧山・多峯主山ガイドマップがあり、見ごろを迎えた野草や樹木、花、紅葉などの写真とそのスポットを示し、掲示することで紹介をしていました。また、数週間に一度の調査を行い情報が更新されています。実習では、飯能市立博物館の概要を学んだうえで施設見学、今月の一品の展示制作、自然観察会のお手伝い、名栗暮らしの展示室・名栗民俗資料保管庫の見学と清掃、ワークシート作成、古文書整理の作成などを行いました。

飯能市立博物館の施設見学では、一般収蔵庫や、特別収蔵庫など普段は決して見ることのできない場所を見ることができました。収蔵庫内はしっかりと温度湿度が管理されていました。棚などにはA～Zまでのアルファベットが書かれており、出したい資料がすぐに出せるよう管理されていました。しかし、館の概要で学んだ資料を保管する場所にも限りがあるという問題も垣間見えました。

今月の一品の展示制作では、飯能市立博物館に収蔵されている数多の資料の中から展示に使う資料を実習生3人で決め、その資料について図鑑や本などで調べ、それらをもとにパネルを作成し展示を行いました。展示をするにあたってどの資料が適切であるか、また、その資料のどのような部分を伝えるのか、どのようにその資料を見せるのか、この展示を見て何を感じ取ってもらうのかなどを考える難しさを感じましたが、完成後はかなり達成感を得ることができました(写真9)。

自然観察会では、主に会場設営、受付、講師の方のサポート、子どもたちの監視などを行いました。今年は、コロナウイルスの感染対策のため検温や道具のアルコール消毒、マスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保なども徹底して行い、虫を観察するときは少し人と人との距離を開けるように声掛けしたり、こまめな水分の補給をするように呼びかけたり、危険な場所に行かないように呼びかけを行ったりもしました。この体験では、子どもたちのどこまでの行動を許容し、どこまでの行動から注意するのが難しく、子どもたちを守るために注意をしすぎてしまうと子どもたちが心から楽しむものにならずまた、自由に行動させすぎると危険な目に合ってしまうということがあり、常に考えながら行動することが求められました。また、学芸員の方はこの企画を考え、下調べを入念に行い、当日にはあらゆることを想定し対処できる体制をとっており素晴らしいと思いました。

名栗暮らしの展示室、名栗民俗資料保管庫の見学では地方博物館の苦悩と現状を目の当たりにし少し驚きました。博物館から少し離れた場所に位置しており、人手の少なさや、時間の関係なども相まって、なかなか完璧にすべての資料を管理することが難しいという現場の現状を見ることができました。名栗暮らしの展示室では、素晴らしい展示を見学させてもらうとともに、解説パネルのルビの振り方や解説文の適性文量の悪い例などを見て学びました。

ワークシート作成では、博物館で使われているおうちでキットを参考にし、テーマや対象、ワークシートの意図、ワークシートの活用の手順、デザインの工夫などを実際に考え作成しました。私はこのワークシートを小学生低学年対象とし

ため、文章をなるべく簡潔にまとめたり、塗り絵と合わせて解説文を穴埋め問題形式にすることで、楽しみながらも学べるといった工夫を凝らし作成しました(写真10)。さらに、裏面のページには、今回ワークシートの中心となった蛍の天覧山における生息分布が書かれた地図を貼り付けたり、蛍の実際の大きさを一円玉の大きさと比較する図などをつけ実際に天覧山に足を運んでもらい実物を見て学んでもらえるように工夫を凝らしました。



写真9 今月の一品

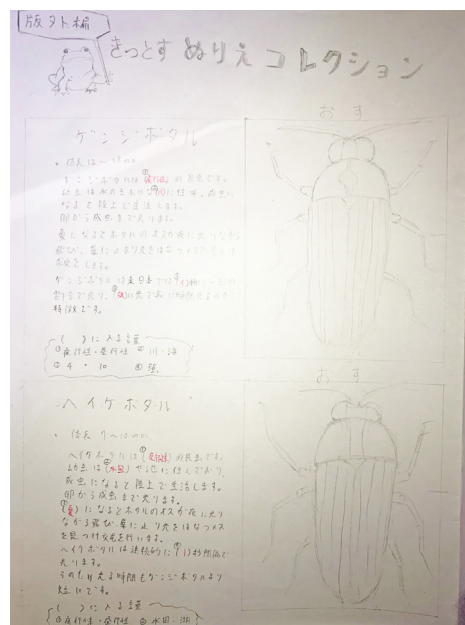


写真10 作成したワークシート

7日間の実習は、とても貴重な体験を通してたくさん学びを得ることができ、これは今後も生かすこともできるものでした。お忙しい中、館園実習を受け入れてくださり貴重な体験、学びの場を設けていただき本当にありがとうございました。

飯能市立博物館

メディア情報学部 メディア情報学科4年 松本 優輝

私は7月31日から8月7日にかけての7日間、飯能市立博物館にて実習をさせていただきました。飯能市立博物館は飯能市の自然や歴史をテーマにした地域博物館です。飯能市立博物館は、平成30年4月にリニューアルをしています。

実習では、事前に郵送されたカリキュラム内容どおりに、1日目にはオリエンテーションと館長からの講話、2日目には「今月の一品」の展示作業、3日目には自然観察会のスタッフ、4日目には名栗暮らしの展示室見学と民俗資料保管庫の清掃作業、5日目にはワークシートづくり、6日目には古文書整理、7日目には、館長講話と実習のまとめという流れで実習を行ってまいりました。

1日目の館長講話では飯能市立博物館の現状と運営方針としてプリントやきつとすレポートという実績報告書を用いて、飯能市立博物館の6つのミッション(使命)としてどのような博物館を目指すのか、館長から博物館のことに詳しく

しい話が聞きました。館長講話の最後には飯能市立博物館の現状や運営方針を聞いたうえで成果指標について意見交換をしました。午後からは、博物館の展示室と収蔵庫を見学しました。収蔵庫には特別収蔵庫と一般収蔵庫があり、特別収蔵庫には主に古文書、一般収蔵庫には主に民具と分かれていて、飯能市民から寄贈された資料がたくさん収集されていました。常設展示での見学では初めに「里」、「町」、「山」、「飯能今昔」の4つのゾーンからなる歴史展示室の見学をしたのち、身近な自然コーナーと飯能と西川村コーナーと案内されました。

2日目は毎月1日には展示替えを行うということもあり、「今月の一品」の展示作業を実習生3人で協力しながら、展示物の選定とキャプションづくりを行いました。一つ展示物を作るのにも時間がゆかり大変でしたが、3人で展示ができたことへの達成感や来館者の方に月が変わるまでの間、観てもらえる喜びがありました(写真11)。

3日目は自然観察会にスタッフとして参加し、子供たちと保護者の方々と一緒に天覧山に入りました。自然観察指導員2人をお呼びして、天覧山を歩きながら昆虫の観察やクモの観察をしました。実際にスタッフとして参加してみると、その日は気温も高かったので、コロナ対策に加えて熱中症対策もしていかなければならないのが大変なことでしたが、子供たちと一緒に天覧山の自然に触れることができ昆虫のことについて学ぶことができました。



写真11 「今月の一品」で作成した展示

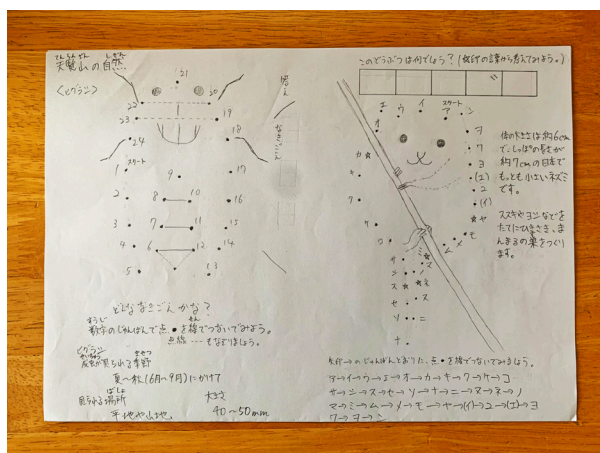


写真12 作成したワークシート

4日目は名栗にある名栗民俗資料保管庫の清掃作業を行いました。保管庫には置ききれなくなった民俗資料が置いてあり、建物に虫が大量に落ちていたので、虫やほこりの掃除作業を手伝いました。名栗くらしの展示室では、広さは約60平方メートルと決して広い展示室ではありませんが、「林業」以外の展示に「炭焼き」、「養蚕・機織り」、「麦づくり」のコーナーに分けられており、主に道具の展示をしていました。展示の解説を受けた後には自由に展示を見て回り展示の感想や意見を一人一人が発表しました。また飯能市立博物館とは違った展示を見て比較してみると学ぶことや分かることがありました。

5日目は飯能市立博物館で行われている取り組みとして配布や配信をしている「おうちできっとす」という子供向けワークシートについて、自分たちでワークシートのテーマ・内容・対象を決めて実際に作成しました。私はテーマを天覧山の自然、内容は点つなぎパズル、対象は小学生低学年向けに考え作成しました(写真12)。1日でテーマを決めて構成を練り作成しなくてはならなかったのが大変なでしたが、どのようにしたら小学生が分かりやすく楽しく学ぶことができるのか考えて取り組みました。

6日目は古文書整理をしました。須田忠明家文書の整理を行い、古文書それぞれ実習生3人で手分けして史料カードに記入を行いました。史料1冊から情報を読み取り記入しなくてはならないのと、史料は1冊1冊と違うものなので情報がそれぞれ違うことや昔の文書なので漢字のつくりが今と違うので解読するのも時間がかかりました。古文書整理を経験することで、古文書がどのように管理や整理をしているのか分かったのが良かったです。普段見ることができない史料に触れることのできる貴重な機会でした。

7日目は実習最終日ということで、今までの振り返りを主にやっていました。実習の最後にアンケートを記入して実習で学んだことや楽しかったことや大変だったことを共有して最後のまとめとなりました。

飯能市立博物館で行った実習は7日間すべてが楽しく、充実した日を過ごさせて頂きました。どれも博物館実習でしか味わうことのできない貴重な経験ばかりで、博物館での職務とはどういったものなのかとても勉強になりました。お忙しい中、実習生として受け入れてくれたことへの感謝を忘れずに、実習で学んだことを様々な形で活かしていきたいと思えます。

《自然博物館での実習》

進化生物学研究所

心理学部心理学科 4年 玉置朱雀

今年には新型コロナウイルスの影響で実習が厳しくなる中、10月19日から23日の5日間、一般財団法人進化生物学研究所で実習を受け入れていただきました。一般財団法人進化生物学研究所は、東京農業大学の「食と農」の博物館とそれに隣接する温室の「バイオリウム」を一般公開しており、また各研究室では魚類・昆虫・多肉植物・資源動物・資源植物・古生物・細胞遺伝子と幅広い分野の研究が行われています。

主に5日間すべての午前中は、館内で研究されているキツネザル属であるワオレムールの糞の掃除と餌やりを行い、その前後と午後に学芸員の方々による講義を受けました。講義内容は日ごとに異なる分野の先生方の経験された博物館の実態や経験談といったお話を教えていただき、館内で世話をしているケヅメリクガメやレムール、様々な魚や昆虫の生態や人間との関わりといったお話から博物館の展示や解説方法、宣伝における工夫や動物園での研究活動の実際など幅広い内容で、一日一日の密度が非常に濃くとても5日間の実習だったとは思えないほどでした。また座学による講義だけでなく、館内を実際に回りながら展示物の解説におけるポイントを実演して下さったり、リクガメやレムールをかなり近い距離で世話をしたり、一般では絶対に入れないような魚たちを飼育している部屋に入れてもらったり、膨大な昆虫標本を実際に開けてみたりと普段では絶対に叶うことが無いような体験を数多くさせていただきました。

なかでも、3日目に行った館内で飼育されているケヅメリクガメを連れた館外を一周する散歩は特に印象的でした(写真13)。散歩といってもリードにつなげ先頭を切って歩くといった形ではなく、視覚情報で道を覚えるケヅメリクガメが先陣を切り、その横で補助をする先生と後ろを実習生がついていく形で散歩をしたのですが、ケヅメリクガメの様子はもちろんのこと、歩道を歩く大きな亀に集まってくる近所の子供たちの勢いがすさまじく圧倒されかけました。ケヅメリクガメよりも周囲にいる人間の方がよっぽど身近にいてわかっているはずなのに、行動の読めなさで自分がどう動けば“うまい対応”ができるのかわからず戸惑うばかりでした。またその日の講義内容は、参加型展示のメリット・デメリットを中心としたものでした。来館者が触れたり感じたりすることができる参加型展示が学習においていかに有効な手段であるのか、また触れもらうことによって起こりうる事故や実際に起きてしまった事例を聞き、その日のケヅメリクガメの散歩を想起させ、博物館としてより多くの学習を得てもらえる参加型展示へのリスクと不安を改めて感じました。さらに今年は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、近年推進されていた参加型展示が難しくなったこともあり、今後求められる展示様式も以前とは大きく異なってくるの难道うかと考えさせられました。



写真13 ケヅメリクガメの散歩の様子



写真14 昆虫標本の薬交換の実習

この非常に濃密な5日間の実習において得た多くの知識や、現場の実際はどれも忘れ難く、今まで未知だった生き物の世界へ、より一層の興味をひかれると同時に人間と動物の信じがたい現実もまたそこにあることも実感しました。研究所は育てきれなくなった生き物を引き取ってくれといわれることも多く、ほかにも動物病院なども建物前に動物が捨てられていることがあると聞きました。さらに研究所内でも飼育されているケヅメリクガメはペット用としてごく普通にペットショップなどで取り扱われており、実際に研究所がある世田谷区の区民には人気がある種類らしく、飼い始めたもののその成長に合った飼育ができなくなり手放したくなるといった人への啓発をも兼ねているというお話を聞き、動物との関わり方が軽率な人間が少なからずいることへの現実味をより感じました。とくに最近では新型コロナウイルスで自宅にいることが多いからとペットを飼う人が増えていたり、テレビの特集などで飼いやすさばかり取り上げられていた兎の飼育に関して兎を飼う人たちが注意喚起をインターネットで行うといった様子は頻繁に目にすることが多く、こうした身近な問題を地域の特色を理解したうえで抑制しているのも博物館として大きな意味があるのだと感じました。

今回の実習では例年よりも2日ほど少ないとのことでしたが、体感では一週間以上にも感じたほどの凝縮された講義や実習を受けることができ非常に多くのことを学ばせていただきました。特に、新型コロナウイルスの影響もあり実習生が殺到する中受け入れてくださったこともあり、とても感謝もしきれないです。

5日間の間ずっと新しく知ることばかりでとても楽しく、さらには貴重な体験をさせていただきました。多忙な中、私たち実習生のために時間をくださった進化生物学研究所の職員の皆様、本当にありがとうございました。

=資料=

博物館実習協力館および受入人数一覧(過去3年間)

【2018年度】

No.	所在	館種	2018年度実習協力館	実習人数
1	沖縄	歴史	石垣市立八重山博物館	2
2	埼玉	理工	さいたま市青少年宇宙科学館	1
3	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
4	埼玉	総合	入間市博物館ALIT	2
5	東京	美術	東京富士美術館	1
6	東京	歴史	古代オリエント博物館	1

【2019年度】

No.	所在	館種	2019年度実習協力館	実習人数
1	沖縄	歴史	石垣市立八重山博物館	1
2	埼玉	総合	入間市博物館ALIT	1
3	埼玉	自然史	埼玉県立自然の博物館	1
4	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
5	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
6	東京	歴史	八王子市郷土資料館	1
7	東京	郷土	清瀬市郷土博物館	1
8	千葉	歴史	流山市立博物館	1
9	長野	歴史	上田市立博物館	1
10	新潟	美術	新潟市美術館	1
11	北海道	総合	北海道博物館	1

【2020年度】

No.	所在	館種	2020年度実習協力館	実習人数
1	長野	歴史	長野県立歴史館	1
2	埼玉	郷土	飯能市立博物館	2
3	埼玉	総合	埼玉県立川の博物館	1
4	東京	歴史	古代オリエント博物館	1
5	東京	動物	(一般財団法人)進化生物学研究所	1

2020年度 資格課程修了者

〔司書課程〕

法学部

法学科

青田 讓

メディア情報学部

メディア情報学科

伊藤 拓海
上野 美咲
梅澤 あやか
大林 泰樹
川端 茉衣夏
久保田 優希
栗原 圭太
齋藤 匠
坂ノ下 誠
鈴木 里歩
塚田 日奈子
堀内 琢斗
前岡 優由雅
松浦 信吾
丸山 泰成
宮崎 史晟
矢野 優莉亜
横川 幸正
亘 愛華
櫻谷 雄太
戸谷 夏実

現代文化学部

現代文化学科

八木 永太
上田 帆波

心理学部

心理学科

北村 香菜
佐々木 南美
玉置 朱雀
山城 詩帆

計28名

〔学芸員課程〕

メディア情報学部

メディア情報学科

栗林 由依
齋藤 亮太
田中 慶吾
塚田 日奈子
松本 優輝

心理学部

心理学科

玉置 朱雀

計6名

司書課程科目担当教員一覧（2020年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
石川 賀一	生涯学習論／図書館サービス概論／情報資源組織論／ 情報資源組織演習Ⅰ／情報資源組織演習Ⅱ
岩熊 史朗	コミュニケーション論
狐塚 賢一郎	生涯学習論
寺嶋 秀美	情報処理概論
野村 正弘	生涯学習論

《非常勤講師》

[教員名]	[担当科目]
北見 久仁子	児童サービス論
河野 剛彦	歴史資料論
小南 理恵	情報サービス論
篠塚 富士男	図書館情報技術論／情報サービス演習Ⅰ（基礎）／ 情報サービス演習Ⅱ（発展）／図書館情報資源概論
三澤 勝己	図書館総合演習
水沼 友宏	図書館情報学／図書館制度・経営論

学芸員課程科目担当教員一覧（2020年度）

《専任》

[教員名]	[担当科目]
石川 賀一	生涯学習論
伊藤 雅道	環境生物学Ⅰ／環境生物学Ⅱ
海老澤 豊	歴史学Ⅱ
大久保 博樹	音響メディア論
大森 一宏	経済史Ⅰ／経済史Ⅱ
岡田 安芸子	日本文化論Ⅰ／日本文化論Ⅱ
木塚 隆志	西洋文化史
黒田 基樹	歴史学Ⅰ／法史学
狐塚 賢一郎	生涯学習論
田所 裕康	地球科学
寺嶋 秀美	ネットワーク構築論
杜 正文	データベース設計論
野村 正弘	生涯学習論／博物館資料保存論／博物館実習Ⅰ・Ⅱ
間島 貞幸	映像メディア論
増田 珠子	歴史学Ⅰ
村上 大輔	文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
村越 一哲	アーカイブズ学
本池 巧	現代自然科学Ⅰ／現代自然科学Ⅱ

《非常勤講師》

[教員名]	[担当科目]
枝川 明敬	博物館経営論
尾崎 泰弘	博物館資料論
河野 剛彦	歴史資料論
小西 俊也	マルチメディア論
杉山 正司	博物館概論／博物館情報・メディア論
野木 道記	博物館展示論／都市と文化施設
羽田 武朗	博物館教育論
矢久保 典良	歴史学Ⅰ／歴史学Ⅱ

駿河台大学 資格課程 年報 第21号

発行日 2021年4月30日

発 行 駿河台大学 資格課程

〒357-8555

埼玉県飯能市阿須698番地

TEL 0429-72-1110

